

4 調査結果のまとめ

(1) 尾張地域

■降水量

2024 年の降水量は、平年値を大きく上回る月が複数あり、年間降水量としても平年値を上回った。(資料－6)

■揚水量(規制区域内)

最近の揚水量は、概ね横ばいに推移しており、2024 年度は 2023 年度と比べ僅かに減少する結果であった。(図 3－2)

■地下水位

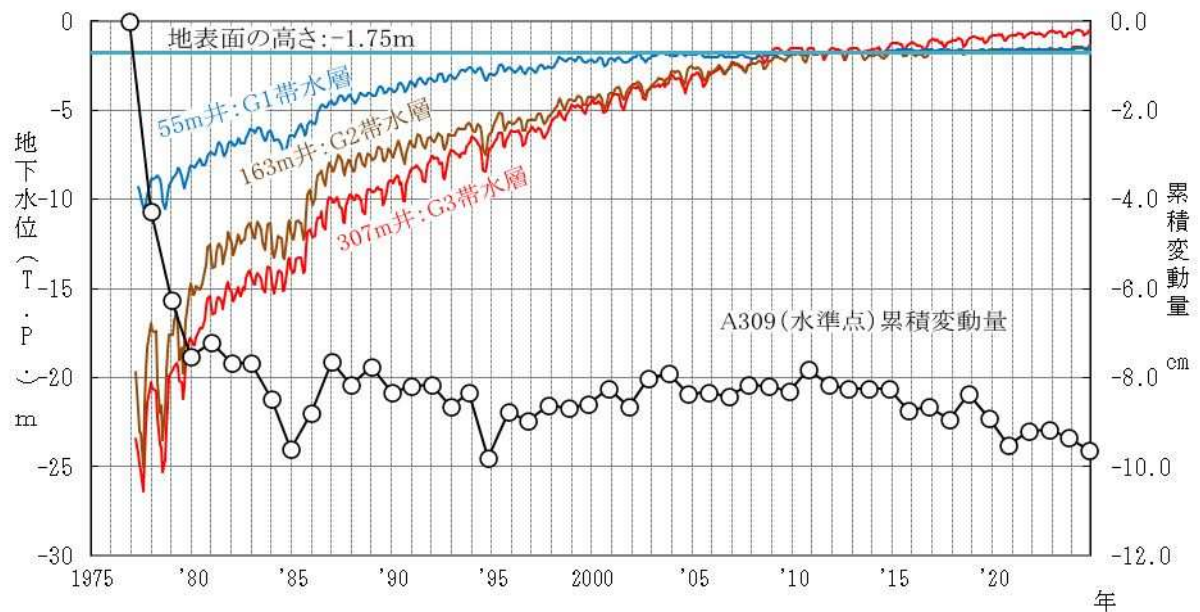
2024 年の地盤沈下観測所等の地下水位は、2023 年と比べ上昇傾向であった。

■沈下量

2023 年からの 1 年間で、1 cm 以上の沈下量を観測した水準点が観測されなかった。

地盤沈下と地下水位の関連について、県内の累積最大沈下点「A3-4」近くに位置する「十四山地盤沈下観測所」における地下水位と同観測所に設置している水準点「A309」の累積変動量を例として、図 4－1 に示す。地下水揚水規制実施以降、地下水位は徐々に上昇し、最近では地表面を超える水準にまで回復している。これに伴い、地盤収縮量の変動も大幅に鈍化し、最近の水準測量の結果についても僅かな上昇・下降を繰り返しながら推移している。

しかしながら、沈下しやすい軟弱な粘土層が厚く堆積している尾張西部地域では、最近 5 年間で数 cm の沈下を観測している水準点があるなど、依然として沈下の傾向がみられるため、今後も注意深く観測していく必要がある。



注 1) 地下水位は次年の目盛りまでの間を 12 分割して月平均水位を表示している。

注 2) 累積変動量は、測量基準日（尾張・名古屋地域：11 月 1 日）における水準測量結果から算出している。

注 3) 地表面の高さは、A309 の 2023 年水準測量結果である。

図 4－1 十四山地盤沈下観測所における地下水位及び水準点「A309」累積変動量

（２）知多地域

2020 年から 2024 年までの 4 年間で 1 年あたり 1 cm 以上の沈下を観測した水準点はなく、沈下域は生じなかった。

（３）西三河地域

2021 年から 2023 年までの 2 年間で 1 年あたり 1 cm 以上の沈下を観測した水準点はなく、沈下域は生じなかった。

（４）東三河地域

2018 年から 2022 年までの 4 年間で 1 年あたり 1 cm 以上の沈下を観測した水準点はなく、沈下域は生じなかった。